

集者と採集地が記されるのみで、採集年月日は不明だ。

明治時代末、フランス大使館付の通訳だったガロアは東京麹町に居を構え、日本産甲虫を盛んに収集していた(保科, 2019)。そして, Portevin (1908) が記載した日本産タマキノコムシには既にガロア採集品が使われている。よって、ツノマルタマキノコムシのホロタイプもおそらくは 1910 年前後に採集された個体と推察される。つまり、本報告はホロタイプ採集以降、2 例目かつ約 100 年ぶりに国内で発見された記録ということになる。

本種を採集したのはブナ林内のブナの立ち枯れで、地面に近い位置(地上から約 20 cm)の樹皮下に溜まった木屑周辺をスプレーし、落ちてきた個体を採集した。

なお、本稿の写真の 2 標本はいずれも未熟気味の個体であり、本来の背面の色は黒に近いことを付記しておく。



図 1-2. 石川県初記録となるタマキノコムシ亜科. 1, ツノマルタマキノコムシ; 2, ツノマルタマキノコムシ.

引用文献

- 久松定成, 1985. タマキノコムシ科 Leiodidae. p. 233-237, pl. 42. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編, 原色日本甲虫図鑑 II. 保育社.
- Hoshina, H., 2000. A taxonomic study on the subgenus *Neoceble* (Coleoptera: Leiodidae: *Agathidium*) from Kyushu, Japan. *Species Diversity*, 5: 59-88.
- 保科英人, 2000. 角(つ)を持つタマキノコムシ. *ねじればね*, (88): 11-14.
- 保科英人, 2019. 明治 40 年代「名和靖日記」. *科学史研究*, 58: 39-55.
- Portevin, G., 1908. Quatrième note sur les Nécrophages du Muséum. *Bulletin de Museum National d'Histoire Naturelle*, Paris, 14: 19-29.
- Portevin, G., 1927. Les Liodidae du Japon. *Encyclopédie entomologique*, Coleoptera, 2: 73-94.
- 渡部晃平・保科英人, 2018. 石川県におけるタマキノコムシ亜科の追加記録. *とっくりばち*, (86): 8-10.

- (渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊 3 番地
石川県ふれあい昆虫館)
- (保科英人 910-8507 福井市文京 3-9-1
福井大学教育学部)

【短報】沖縄島から発見されたウスグロミゾコムシキダマシの記録

ウスグロコムシキダマシ *Poecilochrus japonicus* Fleutiaux は、本州、九州、対馬に生息することが知られる種である(鈴木, 2010)。低標高地に主にみられ、灯火などに良く集まる。筆者は、これまで記録のなかった沖縄島において本種を採集することができたので、記録しておきたい。

報告するにあたり、調査地をご案内いただいた松村雅史氏と野林千枝氏に厚くお礼申し上げる。

1 ♀ (Fig. 1), 沖縄県名護市稲嶺(標高 120-130 m), 8. VI. 2019, 鈴木互採集・保管。

雄は未見で、調査することができなかったが、雌個体においては、色彩や体形、触角の形質において本州産の個体との間に大きな差は認められなかった。



Fig. 1. *Poecilochrus japonicus* Fleutiaux collected from Okinawa Island, Japan, ♀.

引用文献

- 鈴木 互, 2010. 対馬のコメツキダマシ. *甲虫ニュース*, (172): 11-12.
- (鈴木 互 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1
法政大学第二高等学校生物科)